INVITATION

Ehime University Hospital ［愛媛大学医学部附属病院広報誌］

VOL 25

2011

◉特集 患者さんへの新しいサービス

患者から学び、患者に還元する病院

愛媛大学医学部附属病院

病院食は「食事」という視点でリニューアル

栄養部　部長　利光久美子

特別食を提供している方にも、一般の患者さんと同じように選択できる食事に。

PROFILE

としみつくみこ◎管理栄養士・病態栄養専門師。NSTコーディネーター、NST栄養専門療法士、糖尿病療養指導士、日本病態栄養学会評議員、日本静脈経腸栄養学会評議員。愛媛大学大学院連合農学研究科（学術博士）卒。四国がんセンターで、発がん抑制等の研究と栄養指導。2000 年から当院勤務、副部長を経て2011年6月から現職。趣味は美術館巡り、好きな画家はモネ。

病院食の一般的なイメージは、「早い・冷たい・薄い」といった良いものではありません。病気を抱え、食欲の湧きにくい入院生活の中で、今食べたいと思うものが出てくるわけでもなく、治療や病状も相まって食欲は落ちてしまいます。もちろん病院食は治療の一環ですが、基本は食事です。食事は患者さんに元気を与え、心を癒せるものでなければなりません。そこで、当院では4月から新しい病院食の提供に向けて取り組みを始めました。

ホテルJALシティ松山を運営するマーチャント・バンカーズ株式会社が病院食をサポートをする体制です。マーチャント・バンカーズの参入により、病院食に対する考え方が「“給食”から“食事”へ、“業務”から“サービス”へ」と大きく変わりました。スタッフの研修はホテル方式で行い、サービスについてはキャビンアテンダントの接客方法を取り入れました。衛生管理についてはJALホテルズで培われた衛生マニュアルをベースにしながら、病院や厚生労働省が定める基準に合わせています。調理をしているのはホテルのシェフと病院の調理師です。何れもホテルで勉強した経験を持った調理スタッフで、自分達が提供する食事に自信とプライドをもっています。患者さんに良いものを出したい、おいしいものを食べてほしいという想いで、日々調理をしています。先日、初夏料理として鮎料理を提供したところ、ある患者さんから「旬のものを食べることができ、明日の手術に臨む活力になった。」と、お手紙を頂きました。食事には、作り手の誠意や思いやりが伝わるものと、私は思います。食材は愛媛大学農学部や東温市、愛南町からも仕入れを行い、「地産地消」の推進に取り組んでいます。今後はバイキングや、特別メニュー、患者さんの希望に合わせた食事提供などを進めていく予定です。

これからも、患者さんに温かさや優しさを感じていただける食事の提供を、スタッフ全員で努めてまいります。

最初に変えた朝食メニュー。

パンはホテルと同じものを提供。

試食会で挨拶する横山病院長。

新しい世代で、新しい治療研究を

大学院医学系研究科　感覚皮膚医学分野　**佐山浩二** 教授

皮膚科は以前から女性医師の割合が高い診療科でしたが、最近は新入医局員の中で女性が半数を超えています。女性医師にいかに働いて頂くかは皮膚科の発展にとって非常に重要な課題であります。将来にわたって働き続けることができるような環境を整えたいと考えています。診療面では、新しい治療法を積極的に取り入れたいと考えており、まずは新しい治療が開発された「乾癬」の専門外来を設置し治療を開始しております。また、アレルギーの病態解明を進めており、正しい知識を広めてまいりたいと思います。皮膚科は他科と関連している領域が多く、特に薬剤アレルギーはどの科でも起こりえます。境界領域の疾患には、一緒に対応、連携したいと考えています。

ここでやるべき医療をやっていきたい

大学院医学系研究科　生殖病態外科学分野　**那波明宏** 教授

当院の研究内容に興味を持っている医療機関に人材を派遣し、協力体制をつくりながら当院発の情報発信ができないのか構想していることがあります。そうすることによって「愛大の産婦人科はすごい。」と惹かれて入ってくる学生もいるはずです。学生と夢を語りあい、夢を現実にしていく、それをこの愛媛でやっていきたい。しかも、全国に愛媛の良さを知ってもらおうと思って名古屋から参りました。婦人科領域で四国ナンバーワンの大学になる、中国四国地方の中で圧倒的なアイデンティティを確立していく。競争心がなかったらダメだと思うんです。そのために1カ月で研究室の分野を決め、臨床面・研究面の体制を整えました。あとは目標に向ってやるだけです。

患者さん一人一人が納得できるまでサポート

上田　梓 看護師

PROFILE

うえだあずさ◎2001年黒潮福祉看護専門学校卒業。高知大学医学部附属病院内科病棟に就職。2005年から当院、外科病棟で勤務。2009年より外来・IC支援看護師として配属。趣味は旅行だが、現在は3歳の娘と過ごす休日が一番楽しい時間。

附属病院では本年4月より、IC（インフォームド・コンセント）支援看護師を2名から9名へと大幅に増員しました。患者さんの中には、診察内容で分からないことがある方、医師からの説明が理解できていない方が少なからずいらっしゃいます。そういった方の疾患や治療方針への理解をサポートし、納得して治療を受けてもらえるようにするのがIC支援看護師の役割です。活動は2009年から2名でスタートしました。現在、IC支援看護師は外来やがん総合相談ケアセンターなどに配置され、外来患者さんの情報が外来から病棟やがん総合相談ケアセンターへスムーズに連携されるように、継続看護に重点を置いて活動しています。入院日数の短縮により患者さんへの十分な説明が必要となっている今、IC支援看護師の活動はますます重要になります。5月23日から患者図書室「ひだまりの里」がオープンしました。病気や治療に関する本のご案内や相談を10時から16時まで行なっています。入院・外来患者さんと家族を中心に活動の範囲も拡大しています。私自身も看護に対する考え方が変わり、退院後の生活やご家族のことを視野に入れた看護を行うようになりました。今後は、より安心して治療を受けられるよう、更に外来と病棟との連携を支援したいと思います。

愛媛大学医学部附属病院 センター・施設トピックス

お気軽にご相談ください

東日本大震災に対する本院の支援

平成23年3月11日（金）に発生した東日本大震災に対し、本院は下記の医療支援等を行ってきました（平成23年6月末時点）。

● 3月11日（金）～3月14日（月）
愛媛大学DMATとして、医師2人、看護師2人が出動し、福島空港内での救助活動等や福島第1原発事故による被ばく患者の被ばく程度測定に関与した。

● 3月15日（火）～3月17日（木）
診療放射線技師2人、看護師2人が放射線医学総合研究所で放射線計測活動等を行った。

● 4月4日（月）～5月8日（日）
医師、薬剤師、看護師、事務職員によるチームが、石巻市に出動。多職種のチーム構成により、外来診療と避難所巡回診療を行った。

● 6月12日（日）～16日（木）
● 6月19日（日）～6月23日（木）
診療放射線技師3人が、福島県内避難区域における一時帰宅者へのスクリーニングを実施した。

● 6月13日（月）～18日（土）
● 6月17日（金）～6月22日（水）
● 6月25日（土）～6月30日（木）
愛媛県内病院による合同チームに本院も参画し、医師、看護師、事務職員を派遣し、外来診療と避難所巡回診療を行った。

本院では、これからも引き続き被災地の皆様に対し医療支援等を行ってまいります。

医学部総務課　TEL 089-960-5122

ボランティア感謝状贈呈式及び懇談会を実施

平成23年6月13日（月）に医学部大会議室で行いました。本院でのボランティア活動時間が通算200時間、500時間に達した方を病院長が感謝の意を込めて表彰。今年は1000時間を超えた2名を含め8人の方を表彰しました。ボランティアさんの声を直接お聞きする機会でもあり、毎年実施しています。5月23日（月）にオープンした患者図書室「ひだまりの里」にもご協力をいただいております。

医療サービス課医療福祉推進チーム
TEL 089-960-5125　FAX 089-960-5099

「白衣授与式」を実施

平成23年4月28日（木）に「白衣授与式」を行いました。これは今年度から始めたものです。病棟実習開始前に全国共通の共用試験に合格し、臨床実習関連講義を受講し、各種感染症の予防ワクチンを受けて病棟実習の資格を得た99名の医学生がチーム医療に加わりました。真摯な態度で実習に取り組み、将来の医療を担う自覚を持つことを期待し、各教授が白衣を着用させながら激励しました。

総合臨床研修センター
TEL 089-960-5098

編集後記

猛暑が続いていますが、皆さんお元気ですか。今回のキーワードは「新しいサービス（奉仕）」。新設された患者図書室「ひだまりの里」では、病気について調べられるよう病院ボランティアがお手伝いをしてくれます。またIC支援看護師も常駐し、様々な相談に親身になって対応いたします。更に、病院食は“美味しく、楽しくて、元気の出る”食事をサービスすることで、患者さんに生きる喜びを届けます。皮膚科、産婦人科には気鋭の新任教授が着任し、新体制での診療がスタートしました。臨床へ進む医学生への白衣授与式、東日本大震災への継続的な支援など、私たちは全力をあげて患者さんの“生きる力”をサポートしてゆきます。

◎愛媛大学医学部附属病院広報委員会
委員長　檜垣實男

◎表紙の人
IC支援看護師　上田　梓
附属病院ボランティア「いきいき会」代表
寺岡睦雄
―患者図書室「ひだまりの里」にて―

愛媛大学医学部附属病院
〒791-0295 愛媛県東温市志津川　☎089-964-5111（代）
ホームページ http://www.hsp.ehime-u.ac.jp/